

# 書とインテリア

瀬部 明

## <中> 空間を動く書 ~実用品とのコラボ~

軸装なり額装なり、書を鑑賞するための装置は、言い方が悪いかもかもしれませんが、あくまでもその位置に留め置くためのものであり、「飾る」以外の使い方はできません。しかし、絵画や書は自由に空間を動き回ることができ、実用物にピタッとく

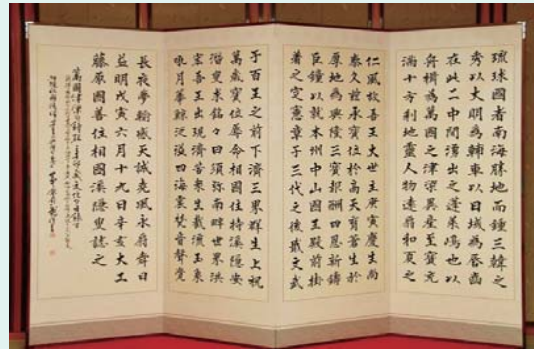


写真1：沖縄県庁第1知事応接室の屏風  
(沖縄県庁ホームページより)

つついてほのかに芸術の香りを漂わせませう。その代表格が、ふすまや“屏風”でしょう。武家屋敷、寺院の応接空間のしつらえとしてよく目にしますが、写真1も応接空間です。テレビでこの屏風に前に知事が会談しているところをよくご覧になると思いますが、華やかな装飾がなくとも空間の風格が上がり、非常に引き締まった感じを与えます。ただ、この屏風の内容に対してはその場に相応しいか等の指摘があり、

前回事べたように読めることで派生する問題もあり得ます。

住まいのちょっとした趣き作りとして写真2のような“衝立”はどうでしょう。これは私の師匠の作品ですが、何気ない空間の一角を切り取って注目させるとともに、実はその裏側を隠すという目的も達せられます。もちろん移動もできます。また簡素故に他のものとの組み合わせもしやすく、この作品も展示会の会場に配置してから「花も生けてみよう」となったそうです。



写真2：「風来 (甲骨文)」  
(第15回須達会展出品)



写真3：のれん  
(T家所蔵)

写真3は、私のいとこの家にかかっている“のれん”です。まさに空間を自由に動き回れる書です。夏場、開け放たれた窓から通り抜ける風はこの「水」を踊らせ、空間に清涼感を漂わせます。他にも手ぬぐい、風呂敷、着物などで、既に書との組み合わせをよく目にされていることと思います。紙とは違って自由な形をとれるのが布の特徴で、平板上にあるものと思っていた書字が思わぬ形を見せるかもしれません。

## 受講者の合格率 100%

### 検定対策講座を実施して

10数年ぶりにインテリア講座を実施しました。

講座の内容は基礎コース3回、検定対策コース10回、5月16日から6月27日までの月・木曜日の午後6時~9時までの全13回、39時間でした。



会場は家具金物などでよく知られるスガツネ工業㈱の会議室を賛助会員の㈱二加屋・杉本社長の協力により、お借りすることができました。貸会議室はたくさんありますが、曜日・時間を指定して予約することは難しく、またT定規・製図板などの用具類も預かっていただくことができ、事務局としては運搬などの負担も減り、おおいに助かりました。

今回の受講者は杉本氏の紹介で家具・内装・金物関係に従事される人と、山田理事の紹介によるルームセラピストの合計10人でした。受講者には、「図面を理解しているけれど我流」、

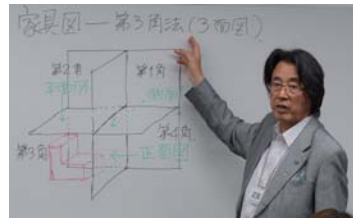


「CAD経験者」もおられました。ほぼ全員が手描き図面は初体験でした。

基礎コースは「線を引く」ことから始まりましたが、期間中に書いてもらったアンケートに、「線を引くということがこんなに難しいとは思っていませんでした」

した」、この一言が強く印象に残っています。

検定対策コースは、課題説明に始まり、平面図・展開図・造付家具・パースなど、実技に重点をおきながら、学科も問題集と合わせテキスト2冊分の範囲を3回の講座でカバーするなどボリューム満点、ハードな内容でした。



日頃、何気なく使っている椅子やテーブルの高さ(家具の基本寸法)に受講者が興味を持つきっかけとなったことも、この講座の成果だろうと思われます。

検定試験の結果は試験当日欠席した1人を除き「全員合格」、講師陣も胸をなでおろしておられることと思います。

仕事が終わってから駆けつけた受講者も大変だったと思いますが、講師陣にもご苦労をかけたことと思います。中心となって指導された足田顧問、小長谷監事、河野会長、

また五代副会長をリーダーとした検定講座委員の南野・田原・山口・瀬部・広畑・山田・朝日・今井・猪木・来藤(順不同)の皆さんにこの場をかりてお礼を申し上げるとともに、次年度もよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、会場を無料でご提供いただいたスガツネ工業㈱、ならびに、毎回講座終了までお付き合下さった担当の奥田主任に心からお礼を申し上げます。

(記・事務局)



ショールームを見学も勉強の一環



## 大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>  
blog <http://oisblog.exblog.jp>  
E-mail [ois@jp-interior.or.jp](mailto:ois@jp-interior.or.jp)

発行者：河野  
編集者：田原(第3事業部長)  
スタッフ：瀬部・石渡・山田・朝日  
加茂・今井・守屋  
五代(第1事業部長)  
事務局：岡崎・奥田



## 合格者名簿

- <1級>
- 下田 洋輔 (社会)
- <2級>
- 石川 達也 (中央)
- 乾 遥菜 (大芸)
- 大西 愛 (羽衣)
- 岡野 和生 (社会)
- 尾坐 祐輝 (中央)
- 尾畑 勇氣 (羽衣)
- 木村 嘉兼 (社会)
- 桑田 椋斗 (大芸)
- 古西 裕子 (大芸)
- 坂口 未怜 (大芸)
- 佐藤 瑠子 (社会)
- 清水 綾乃 (羽衣)
- 高島 千鶴 (社会)
- 高野 真由 (羽衣)
- 高橋 征治 (中央)
- 豊嶋 美憲 (大芸)
- 長山 友美 (中央)
- 平石 浩司 (社会)
- 福浦 郁栄 (羽衣)
- 松尾亜希子 (社会)
- 村田 千奈 (羽衣)
- 粉谷 真弓 (社会)
- 森口 拓也 (社会)

### 凡例

- 社会 = 社会人
- 羽衣 = 羽衣国際大学
- 大芸 = 大阪芸術大学短期大学部
- 中央 = 中央工学校 OSAKA

インテリア設計士の試験に合格し、新たにOISの会員になられた皆さん、おめでとうございます。協会では、会員相互の親睦及びスキルアップのために色々な催しを企画提案して皆さんへ発信していきます。会員になられたからには積極的にイベントに参加して、経験豊富な先輩方の人脈をそれぞれ広げていってほしいと思います。合格したから終わりではなく、これからは、本当に資格者として誇りと



証書伝達式報告

第56回資格試験に合格した人たちに設計士証書を手渡す「証書伝達式」が9月24日(金)、長堀橋に程近いイタリアンレストラン「GOTTI」で実施されました。私も今を去ること9年前、この式で設計士証書を受けたことを鮮明に記憶しております。

インテリア、建築を学ぶ学生の他に、今年は事前講座に参加し試験を受かった社会人の人々の参加のあり、開始前から熱気と緊張ムードが感じられました。

合格者一人ひとりに河野会長から証書、資格カード、ラペルピンと、参加記念としてインテリアに便利なメジャーコンバックスが拍手の中贈られました。

授与が終わって食事の時間になり、一気に緊張感がほぐれました。検定受験に尽力いただいた学校の先生方、

## 新入会の皆さんへ

会長 河野 洋二

自信、責任のもてる技術・知識をしっかりと身に着け、インテリア設計士として世の中を渡っていきけるよう頑張ってください。

現在はインターネットで必要な情報はすぐに得られます。しかし、それは表面上の情報でしかありません。知識、技術、知恵は経験に基づいてこそ身につくものです。日ごろからそのつもりで努力してください。

皆さんの積極的な行動に期待いたします。

OIS賛助会員や役員理事が多数参加する中、賑やかに相互間の懇親や情報交換、良い雰囲気の中、時間が経過しました。

その後、合格者全員から今回の受験に対する感想等を一口ずつ述べてもらいましたが、異口同音に「最初は何も分からず、難しく不安でしたが、指導を受け勉強したことが良い経験になりました」と、感謝の言葉にかわっていたように思われます。

毎年同じことを思うのは、新しく会員になった皆さん方は、今、このときの感動を胸に、是非いろいろな催しに参加してもらいたいということです。参加することにより、インテリア、建築の知識・技術習得はもちろんのこと、大いに有意義な経験ができるものだと思います。(記・朝日 勝彦)



# HASHIRIGAKI

葉知利書

### 「麒麟ビール神戸工場見学」

6月4日実施の麒麟ビール神戸工場見学会のメンバーは気心の知れた7人で、リラックスムードの見学会だった。場所は神戸市北区赤松台だが、JR「三田」駅から送迎バスが神戸電鉄「フラワータウン」経由で運行されているので便利である。そのバスは、外装を缶ビールに模したユニークなもので、予想していたより大勢の客が乗り合わせた。

土曜日で工場は稼働していなかったが、案内嬢と映像による説明で製造工程が分かる仕組みが出来上がっている。神戸工場は「一番搾り」を製造しており、「一番搾り麦汁」と「二番搾り麦汁」の飲み比べや、見学ルートには「ビールの缶詰めは1分間に2000本、日本最速」「ラベルの変遷」などが分かり易く展示されている。以上で見学は終了、お待ちかねの「試飲タイム」に入る。

試飲は一人3杯と規定されているので、一番搾りのレギュラー、同神戸づくりとスタウトをいただいたが、見学当日には発売前の「大阪づくり」をオマケに飲んだ人も。



ハートマークの糖化釜を囲んで

試飲会場では美味しいビールの注ぎ方の説明もあり、そのあと、予約してあった「丘の上のビアレストラン」で食事、またそこでも一番搾りのピッチャーを注文、昼間としては多すぎるほど飲み、ショップでは、「ここでしか買えない」レアな土産物を物色、記念の品を手に再び送迎バスで「三田」駅へ。

ロビーに展示の糖化釜は、床のハートマークの地点から写真を撮るとハート型がくっきり写し出されるとの説明があり、その位置から記念写真を撮ると、なるほどハートマークが。(記・奥田 忠彦)



送迎バスに乗る

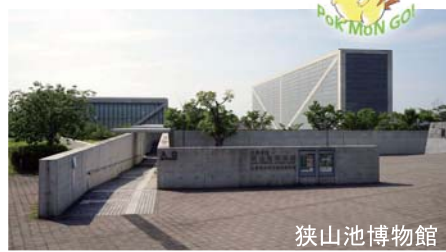


まずは、全般説明を

### TALK-PAL⑤ 2016.6.18

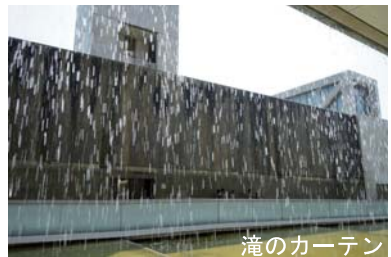
#### サンニンGO!

OISの先輩会員・宮本さんの「カーボンチェア」が大阪狭山市の「さやまのえもん」に認定され、その展示会がトークパルと同じ日に、同市コミュニティセンターで行われました。奥田さん、岡崎さんと共に3人で拝見しましたが、地元の方々も多く来られており、座り心地を確かめて驚嘆の声を上げておられました。



狭山池博物館

その後、「トークパル」のためにすぐに大阪市内に戻ってほしいなと思う、同市内にある「大阪府立狭山池博物館」に行くことにしました。かわいいバスに揺られて10分ほど、のほろが、バス停の位置を間違えてしまい、6月とはにわかには信じがたいほどの炎天下にハイキングを行うことになりました。奥田さんの「(トークパル用に)バカルディ冷やしたあるからな！」の言葉を何度も反芻しながら、ひたすら歩きました。この博物館は平成の狭山池改修を記念して作られ、狭山池の本物の堤の切り取り断面が



滝のカーテン

展示され、その大きさと1400年の修復の歴史に圧倒されました。安藤忠雄設計の建物には壮大な水盤が巡らされ、風に煽られてこぼれ落ちる水はまるで滝のようでも、映画「十戒」の割れる水面のようでもありました。とにかく内も外も見応え十分でした。

そして夕方、OIS事務局に戻り、ややフライング気味であったかもしれませんが、16時半からトークパルとなりました。都会の真ん中で、明るいうちから酒を飲むこの開放感！ もっと多くの方々と共に共有したかったのですが、残念ながら男3人…バカルディは我われの乾ききった身体に染み透り、あっという間にカラになりました。(記・瀬部 明)



キンキンに冷えたBACARDI

#### タコスに苦戦

8月のトークパルは金曜日という好条件で多数参加かと期待しましたが、好条件というのは私だけの勝手な解釈で、蓋を開けてみますと、ママアという結果でした。

人数的にはママアでしたが自身は盛りだくさん、今年復活した「受験のためのインテリア講座」、次回MANA-BOZEの内容検討などマジメな話から始まり、折も折り、リオ・オリンピックの話題へ、そして、アルコール度数が上がるにつれ、若干砕けた話も飛び出すオトナの世界に。トークパルは会費無料の持ち寄り制、慣れないうちは、迎え入れる事務局側として、どの程度準備しておくべきか迷い・悩みがありました。回を重ねることにより学習され、今回でスッキリしました。まったく準備なしでも持て余すほどの食料や飲み物で満たされることが分かったのです。

今回の一つの目玉は「タコス」でした。いい年をしてといわれそうですが、TVでは見たことがあっても食べるのは初めて、パリッと焼き上がった皮に挟まれた沢山の具が、かめばはみ出し、ヒゲにまでくっつく騒ぎ、結構苦戦しましたがお味は満点でした。さらに筑前煮、サラダに冷奴、漬物から甘いものまで勢揃い。飲み物はビール、焼酎、日本酒から紹興酒と、ジャンルもワイドです。今回はワインやウヰスキーはありませんでしたが、飲み物の目玉は「日本酒」で、白鹿の特別純米原酒「山田錦」、春鹿の「超辛口」純米酒、純米酒「片野桜」と3種とも純米酒、お酒の分かる人たちの持込みと納得でした。(記・奥田 忠彦)



TALK-PALは偶数月の19日(休日の場合は繰上げ)に実施。会費は無料、飲食物の持込みで意義のある時間を共に楽しむ仕組みです。ご参加お待ちしております。



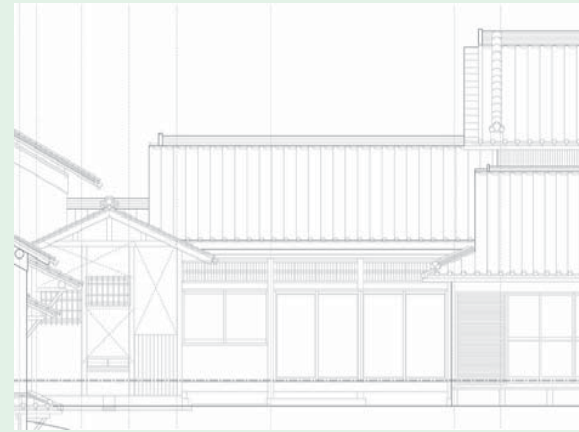
### TALK-PAL⑥ 2016.8.18

#### 会員の仕事

#### 守屋 一之さん



- ①会社名：守屋建築事務所
- ②職種・業：建築設計業
- ③経験年数：独立後8年
- ④携わっている仕事や内容：建物調査・図面作成
- ⑤やりがいを感じることや楽しみ：図面が出来たとき
- ⑥大変だと思うことや失敗談：図面がなかなか進まないとき・納期に…
- ⑦今後やってみたいこと：油絵を描いてみたいです
- ⑧なにか一言：公民館などに「防災かまどベンチ」を作る活動を行っています。



### THE HILL HOUSE 知っ得画報

ヒル・ハウスチェアは、チャールズ・レニー・マッキントッシュが設計した住宅「ヒル・ハウス(1902-04)」のための椅子です。スコットランド、ヘレンズバラの小高い丘の上にあるこの住宅で、マッキントッシュは建築のみならず家具・絨毯・照明から壁紙のパターンなど細部に至るまでのデザインを総合的に行い、建築家の卓越した美意識を実現していますが、内部は撮影禁止だったため外回りだけ…。(撮影：奥田 忠彦)



### 手作りサロンのご案内

今年の「事遊展」のテーマは「木」。木で作ったもの、木をイメージする絵画や写真、その他ジャンルや手法は自由です。一人でも多くの会員に出品していただく、一人でも多くの会員に観に来ていただくことを目的に、11月26日(土)、御堂筋で心齋橋に近く、1階にApple StoreのあるアーバンBLD心齋橋ビルの9階で実施することはご案内済みですが、出品のための作品作りを楽しみながらやる「手作りサロン」を行います。実施要領は次のとおりです。



### 暑さをぶっ飛ばす



恒例のビアパーティーを7月29日(金)、阪急トップビアガーデンで実施しました。駅からすぐという立地の良さと週末も重なり会場は大賑わいで、ビールを注ぐにも一苦労という有様でした。熱気ムンムンはいいいのですが、座席が狭く料理もイマイチ、参加者には申し訳なかったのですが、OISのメンバーと飲むビールは格別で、文句も言わず楽しんでくださいました。鬼が笑うかもいれませんが、来年のビアパーティーは皆さんに満足していただける会場の目星は付けました。ご期待ください。(記・岡崎 正明)



途中退席者もあり、総勢は12人でした

#### <手作りサロン・実施要領>

開催日：11月9日(水)・11日(金)・16日(水)・18日(金)の4回のうち、あなたの都合の良い日を選んでください。何度でもかまいません。  
時間：夜5時以降～9時半ごろまで  
会場：OIS事務局  
申込：参加日の選択は参加者の自由ですが、事前に「参加」をメール等でお知らせください。  
材料：持参する(下記参照)  
工具：鋸、鉋、ドリル、金槌、接着剤、釘などの他は持参してください。  
参加費：不要

#### <素材案>

定番の板、角材、丸棒のほか、枯れ枝、流木、版木、割り箸、マッチ棒、爪楊枝、かまぼこ板、ワイン栓など、身近な素材の利用も考えられます。事務局に、以前「突き板見本」、「My箸」を作成した折の突き板、細い棒などが残っていますので利用できます。

#### <作品例>

何を作るかは自身で考えるほか、サロンで相談して決めるのも楽しいでしょう。写真のベルリンチェアのミニチュアは、私が以前事務局内で作ったものですから、この程度のものなら作ることができます。(記・奥田 忠彦)